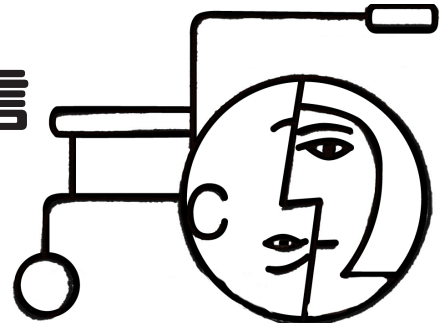


2022年9月15日 NO.131号

# 障害児・者サークル通信

発行：性教協★障害児・者サークル事務局  
〒591-8046 大阪府堺市北区東三国ヶ丘町5-2-10 千住方  
E-mail seikyokyo\_kansai@yahoo.co.jp  
HP <http://shogaiji.seikyokyo.org/>



- 特集 夏のセミナー報告
  - 全障研全国大会（兵庫）レポート 安田菜津紀氏講演・分科会 …… 1
  - 性教協第41回全国夏期セミナー中国大会 IN 広島レポート …… 3
  - 障害児・者性教育セミナー in 堺レポート …… 5
  - 全障研宮城支部学習会原田文孝氏講演報告「私に人生と言えるものがあるなら」 …… 6
- まるっと講座◎報告「快が分かる、性器が持てる大切さ」 …… 7
- 連載「親ばなれー子ばなれ」（その8） …… 8
- お知らせコーナー …… 10

全国障害者問題研究会第56回全国大会 兵庫

## 記念講演「みんなのねがい」表紙など 写真と共に考える人びとの人権、平和」

記念講演は「みんなのねがい」の表紙を担当されているフォトジャーナリストの安田菜津紀さんが写真の撮影を通して出会った方との出来事を振り返り、写真に語りかけるようにお話が進みました。

### フォトジャーナリストになるきっかけは…

アジアで教育支援をする「国境なき子どもたち」子どもたち友情のレポーター（子ども記者）として高校2年生の時、初めてカンボジアを訪れたことが原点となっている。貧困家庭や人身売買、虐待を受け働かされている過去を持つ子どもたちと出会い、「出会いを超える人を変えるものはない」と思っている。カンボジアに行く前はなんとなく大変そうな国と思っていたが、訪れると一気に「あなたと私」と関係性を結んだ。友だちが抱える問題に心の距離がぐっと縮まり、問題に対して、今自分ができる役割を考えた。一人でも多くの人たちと「このようなことがあって、このような子どもたちがいることをどう思いますか？」と分かち合っていく。これが伝えることの原点になっていると話され、そして、もうひとつの安田さんの今の活動につながる出来事について、当時を思い返すように語られました。

### お父さんのこと…今も続く差別

子どもの頃、お父さんに絵本を読んでもらっていた時に日本語が上手く読めないお父さんにイライラし「お父さんへんだよ。日本人ではないみたい」と言うとお父さんの表情が変わった…その顔を一生忘れない。その後、中学1年で父が亡くなり、中学2年生で兄を亡くしている。モヤモヤして、今この環

境から離れたい、外の世界を見たいと思い、カンボジア行きを決めた。その時パスポートが必要で戸籍を見ると、父の欄には見慣れない文字「韓国籍」とあった。在日コリアン2世であること、出自を語らない父は複雑な家庭で育ち、上手く教育の機会に繋がらなかったことを知った。ここで絵本の読み聞かせの時間と1本につながった。どうして父は出自を語らなかったのだろうと考えルーツを辿り、今でも行われているヘイト街宣、インターネットのヘイトスピーチが発信されていることを目の当たりにし「差別があることを語らなかった、語ることができなかった」父の思いと重ね取材を続けている。大人が何をするのか改めて問われ、何をするのか考えなければいけないと訴えかけました。

最後に16歳の時、広島で被爆し出自によって、ひどい言葉を向けられ、差別を受けてきた李鐘根（イ・ジョンゲン）さん。7月末に亡くなっている。表紙の写真を見て「また会えたね」と安田さんは涙で言葉を詰まらせました。より声を上げられない人たちは誰なのか？という視点でウクライナの取材も続け、日頃から脆弱な立場の方々、声をあげられない人がますます声のあげられないところに追いやられてしまっていると紛争地のリアルな声を届けてくださいました。

言葉にできない人たちの思いを写真から受け取ることができ、涙が止まらない講演でした。「生きたことば」を閉ざさないように…対話を重ね語り合うことを続けていきたいと思います。（河村あゆみ）